

# 聾学校地域支援だより

## 受験がんばっています

私立の試験、公立高校の前期試験がスタートしました。  
自分の夢に向かって、あきらめずにがんばっていきましょう。



### <高校入試速報～先輩の体験談～>

#### 私立高校編

A 高校では、座席の配慮をして  
くれました。



B 高校では、座席の配慮をお願いしたところ希望した最前列ではなかったが、近くの試験監督の先生が放送のたびに確認してくれた。確認の仕方も「わかったか」ではなく「どのような内容だったか？」と復唱するかたちでした。テスト問題の訂正があったが、プリントが渡され、確認の復唱も求められました。



C 高校では、全体説明の時にロ  
ジャーマイクを使ってもらいま  
した。



D 高校では、全体説明の時も  
リスニングの時もロジャーマイ  
クを使ってもらえませんでした。



E 高校では、在籍中学校で受け  
ている配慮をお願いしまし  
たが、配慮は何もありませんで  
した。

F 高校では、放送の内容を文字  
表記したものを渡され、さらに  
不明な点はないかと確認して  
くれました。



G 高校では、テスト問題の訂正  
事項について板書されていた  
ので確認できました。



特に心配することがなかったの  
で、何もお願いしませんでした。

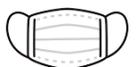
H 高校では、放送での全体説明  
の後、説明内容が聞き取れたか  
確認をしてくれました。



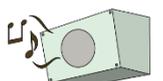
I 高校では、  
テスト問題の訂正事項につい  
て放送がありましたが、本人  
への確認はありませんで  
した。おかしいと思い顔を上げ  
たところ、試験監督の先生が  
板書を始めました。



J 高校では、試験監督の先生は  
通常のマスクを着用していま  
した。



K 高校では、リスニングが予定  
されていましたが、秋に今季は  
実施しないことになりました。



# 公立高校前期編

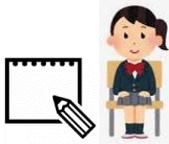
A 高校では、座席の配慮をしてくれました。



D 高校では、全体説明の時も面接の時もロジャーマイクを使ってもらいました。



F 高校では、面接の時に質問の内容を文字で提示しながら質問してもらいました。



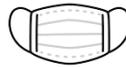
B 高校では、集団面接から個別面接に変更してもらえませんでした。



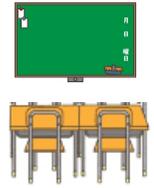
E 高校では、集団面接から個別面接に変更してもらいました。



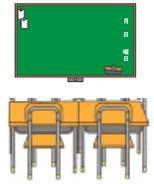
G 高校では、面接の時にマウスシールドを使ってもらいました。



C 高校では、みんなと同室での受験を希望しましたが、別室での受験となりました。



H 高校では、別室での受験も可能と言われましたが、みんなと同室での受験を希望しました。



＜先輩たちが受けた公立高校後期選抜の合理的配慮の例＞

どんなとき	どんな配慮を（例）
●全体説明・学科試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席を前の方にしてもらい、口元が見えるようにする。</li> <li>・ロジャーマイクを使用してもらう。</li> </ul>
●英語のリスニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカーの近くの席にもらう。</li> <li>・スピーカーの近くにロジャーマイクを置いてもらう。</li> <li>・音声が届きやすいよう、別室で受験する。</li> <li>・別室で受験し、音声ではなく文字（テロップ）を流してもらう。</li> <li>・ヘッドホンを使用する。</li> </ul>
●面接	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の番が来たら呼びに来てもらう。</li> <li>・面接官との距離を近くしてもらう。</li> <li>・集団面接を個別面接に変更してもらう。</li> </ul>



もっと詳しく知りたい場合は、  
聾学校のホームページ Q21 をご覧ください

中学校で受けてきた配慮が基本となり、中学校の校長先生と、受験先の高校の校長先生との相談の上、受験での合理的配慮が決まります。

ですから、日頃から中学校の先生とよく話し合ってください。

また自分のことなので、「静かな別室で受験させてほしい。」など

自分の考えもまとめておきましょう。

自分の希望を叶えるために、しっかり情報を集めておくのも大切です。

## Q・021

群馬県の公立高校の受験で、合理的配慮をお願いする場合どのような書類が必要ですか？



Q012にあるように、基本的には、中学校で受けている配慮を、高等学校にもお願いすることになります。聴力の程度によっても異なりますが、以下のような配慮をお願いします。

説明や面接のとき、「話している人の口元が見えるよう座席の配慮をしてほしい」「補聴援助システムのマイクを使ってほしい」「マスクで口元が見えないので質問の内容を書いて見せてほしい」

英語のリスニングを、「同室で座席をスピーカーの近いところにしてほしい」「補聴援助システムのマイクを使ってほしい」

「別室でテロップ（文字）を映して代替してほしい」。

す。

選抜ごとに書類を作成する必要があります。前期選抜では「前期試験の面接でこんな配慮をしてほしい」、後期選抜では「後期試験の英語のリスニングでこんな配慮をしてほしい」などということに記載します。

手引きには、「リスニングテストを受験する場合の基準」があります。

「両耳の平均聴力が60 dB以上の重度難聴者は、別室でテロップで受験する。」

それ以外は、別室でODプレイヤーのボリュームをあげて聞く、同室で座席をスピーカーの近いところにする。」などあります。

中学校で受けていない配慮を要求することができないので、普段から、**どんな配慮を受ければ自分の実力を発揮できるか、様々な方法を試すなどして、必要な配慮についてよく考えておきましょう。**

例えば、英検では、6級以上の手帳を持っていれば、リスニングをテロップで受験することができます。中学校の英語の先生も、難聴の生徒を担当したことがないと知らないかもしれません。まず、英検で先生にも知ってもらい、その後、定期試験で実施してもらった中学校もあります。